

令和4年度ふれあいトーク議事録(8月24日)

日時 令和4年8月24日(水) 19:00～
 場所 女良地区女性活動拠点施設
 出席者 18名
 市長、企画政策部長、総務部長、産業振興部長、市民部長、建設部長、教育次長、
 防災・危機管理監、消防監理監、地域振興課
 内容 19:00～19:05 冒頭の説明等
 19:05～19:40 あいさつ、市政の概要について 市長説明
 19:40～19:42 女良地区事業概要について 地域振興課説明
 19:42～20:00 意見交換
 20:00～20:20 氷見市芸術文化会館等について 企画政策部長、市民部長説明
 20:20～20:30 閉会あいさつ 市長、女良自治振興委員連合会 川口会長

質問の内容	回答
1 災害による損害の復旧スケジュールはどうなっているか。 また、復旧に対応する技術職の職員は足りているのか。	【建設部長】 通行止めとなっている市道については今後現地調査の上、対応を検討予定。その他の箇所についても順次、現場確認を行い、事案ごとに方針が決まり次第、地区に案内予定。 【総務部長】 技術職については、県内市町村は県職を含め、募集定員が埋まることはほぼない状況である。今年度は民間経験のある方を2名採用した。不足している場合には、随時追加募集をかけている状況である。
2 女良生活改善センターの維持管理が負担になってきているが、支援等してもらえないか。現在年間維持管理費に30～40万円。一戸あたり1,000円以上の負担。	【産業振興部長・企画政策部長】 今年3月に設立された地域づくり協議会で地域づくり計画を策定すると思うが、その事務所機能として女良生活改善センターを活用すれば、そちらの補助金を維持管理費に充てることができる。また公民館等の消防設備の修繕に対する補助制度もあるので、ご相談いただきたい。
3 ・大型事業の実施(給食センター・新文化施設整備等)により税金が上がるようなことはないか。また、造った後にランニングコストがかかってくるが、収支等は大丈夫か。 ・地区に地主から施設を解体して更地にしたうえで返して欲しいといわれている施設があるが、解体に対する補助等はあるか。	【総務部長】 事業の実施により財政が厳しくなり、その結果市民税が上がることはない。また、事業の実施に関しては毎年財政シミュレーションを行った上で、財政破綻しないような財政運営を行っている。 【市長】 財政標準規模からすると氷見市は県内でも貯金に余裕があり、うまく財政運営ができています。人口減少による税収の減少も踏まえてシミュレーションを行っている。(新文化施設や給食センターの)ランニングコストについては、現状の見通しでは問題ない。 解体に対する補助については跡地利用の計画があればメニューがあるが、ただ壊すだけとなると補助は難しい。
4 中山間地直接支払い事業に取り組んでいるが、年々制度が複雑になってきている。また、事業の担当者が慣れてきたころに異動してしまうので、事業の実施にあたって不都合が生じることがある。もう少し長いスパンで担当してもらえないか。	【総務部長】 近年の担当者は確かに2年から長くても4年で異動している。昇進のタイミングの関係で結果として1年ということもある。市全体の人事の中で、年数を固定するのは難しいが、なるべく事業に影響が出ないように人事を行っているつもりではある。 【市長】 これまでの経験上、担当者には3年は事業を担当してもらいたいという思いはある。 (制度の複雑化については)国の補助金ということもあり、担当者も細かいことを言っていると思うが、書類の簡素化等に努めていきたい。
5 ・災害について規模が小さいものについても助成をお願いしたい。 ・生活用水施設維持支援事業について、申請を簡素化できないか。(領収書添付の省略等)	【建設部長】 国の災害復旧事業は事業費40万円以上のものが対象。それよりも小規模なものは市単事業で対応できる場合があるので、相談いただきたい。まずは現場確認をして、事業規模を確定した後にメニュー等ご提案させてほしい。 生活用水施設維持管理事業は申請書自体はかなり簡素化しているが、国の補助金関係で、証拠書類の添付は申し訳ないが省けない。